

# 平成 30 年度 姉妹校等留学プログラム

## UNIS-UN 学生会議派遣行事

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立東高等学校/海外研修（2人）

### (2) 渡航先

国/都市：米国/ニューヨーク市

外国の高校：United Nations International School

### (3) 期間

平成 31 年 3 月 3 日～平成 31 年 3 月 10 日（8日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

ニューヨーク市で開催される UNIS-UN 学生会議に生徒を派遣することにより、

○世界の様々な問題について考え国際理解を深めるとともに、問題解決能力を養う。

○学生会議でのプレゼンテーションやディスカッションを通して、実践的コミュニケーション能力を育成する。

○世界各国の学生と接し、多様な文化や考え方を知ることにより国際感覚を養う。

○学生会議への参加やホストファミリーと過ごすことで、日常会話としてのコミュニケーション能力や異文化間コミュニケーション能力を養う。

○UNIS「国連国際学校」と友好関係を深める。

また、米国での家庭生活を体験し、異文化理解の糸口とする。

さらに、海外旅行中の様々な場面での対応法等を学習する。

### (5) 活動内容

○アメリカ合衆国ニューヨークで開催される UNIS-UN 学生会議に参加することにより、問題解決能力、実践的コミュニケーション能力、異文化理解等を促進する。

○3か月半の事前研修に積極的に参加し、できる限りの準備を整えて現地に向かい、予定された日程を全うした。

○帰国後は自らの体験を積極的に広報・継承しようとする姿勢が顕著に見られた。

### (6) 実績・成果

#### 事前学習

毎週火曜日、水曜日を中心に週2回、英会話部及びTCS（「知る力」「考える力」「伝える力」を育成するワークショップ）の活動として1回約1時間から1時間半のペースで事前研修を実施した。

また、神奈川県立神奈川総合高校、横浜市立横浜商業高校の英語による高校生会議に参加し、ディ

スカッションの経験を積んだ。冬休み期間中に集中的に英語運用能力の育成、課題に関する知見を深めた。その他にも、関連用語の英語リストを作るなど積極的に準備を行った。

(派遣高校生 S さん)

私たちは、本会議のテーマである水の危機に関する情報を収集し、自分が興味を持った内容についてさらに理解を深め、そこにどのような問題があるかを考えました。

私が調べたのは、日本の海中汚染や海岸のごみについての問題です。2016 年に日本の海岸で収集



されたごみは約 45,000 トンにも及び、その量は増加傾向にあります。また、近年では人間が捨てたストローやカップなどのプラスチックの製品を海洋生物が誤飲し、消化できずに体内に残されてしまったり、のどに詰まらせて窒息したりしてしまうという事故が相次いで起こっています。私は海中や海岸のごみが海の汚染だけではなく、海で暮らす生物にまで悪い影響を及ぼすことを知り、この問題の解決方法を調べたいと思いました。この問題の解決に向けて、

高校生の自分たちにできることは何かインターネットで調べる中で、海岸の美化を進んで行う団体が増え、様々な年齢層の人達が清掃活動にボランティアとして参加していることが分かりました。



身近で行われているボランティア活動を調べると、江ノ島で海岸の清掃活動を行っている NPO 団体があることを知りました。この団体は「楽しいごみ拾い」を活動方針にしており、年間を通して江ノ島の海岸の清掃を行っています。

この清掃活動には誰でも自由に参加することができ、私自身も江ノ島観光の途中で、海岸で清掃活動をしている人に誘われて、ボランティアに参加したことがあります。この団体では、毎回楽しいイベント行ったり、参加した人に T シャツのプレゼントをしたりするなど、参加者を募るために様々な工夫がされていて、子供でも楽しく参加することができます。私は、このような取り組みが行われていることを SNS やテレビなどのメディアを通して全国に伝え、より多くの方が水の汚染や海洋生物の危機に対して問題意識を持つべきだと思います。

## 市内観光1日目（3月4日）

（派遣高校生Aさん）



最初は、メトロとバスに乗ってメトロポリタン美術館に行きました。

外から見ると、写真には納まりきらないほどとても大きな美術館で、美術館の前にはホットドッグを売っているキッチンカーがありました。

美術館はヨーロッパ絵画やアメリカ美術、アジア美術などに分かれていました。

私たちは最初にヨーロッパ絵画を見に行きました。行く道中に様々な彫刻を見ることができました。ヨーロッパ絵画のコーナーは下の写真のように大きな通路からたくさんの部屋につながっていて、その中に多くの絵画がありました。



部屋の中には、画家ごとにかたまって様々な作品が展示されていました。

Claude Monetの有名な睡蓮がこの美術館には数種類あり、このようなタッチの絵は見たことがなく、驚きました。私の中で、モネの絵といえばふわっとした優しいタッチの絵のイメージがあるからです。

他にもゴッホの自画像やひまわりの絵も見ることができました。

メトロポリタン美術館の後は少し離れたホットドッグ屋さんでホットドッグを食べました。ソーセージがパリッとしていて美味しかったです。

そのあとは自由の女神を見に行きました。無料のクルーズ船に乗って自由の女神を少し離れた所から見ることにしました。

フランスにある自由の女神像よりもすごく大きくて驚きました。



クルーズ船からはマンハッタン周辺の街並みも見られました。



しかし、その日は気温が氷点下まで下がっていたので、冷たくかじかむ手で必死に写真を撮っていたのを覚えています。

その後少しウォール街を歩きました。古くておしゃれな街並みでした。そのまま歩いて、ワン・ワールドトレードセンターを見に行きました。中には入らず、外から見ました。

目の前には水が中心に向かって流れている大きなため池のようなものがありました。そこには9.11の同時多発テロで亡くなった人の名前がいくつも書かれていました。その中には日本人の名前もいくつかあり、胸が痛くなりました。テロの規模の大きさと罪のないたくさん犠牲者に、言葉が出てきませんでした。



韓国のご飯屋さんで夜ご飯を食べた後、エンパイアステートビルに上りに行きました。96階まで上がって外に出て夜景を見に行くと、今までに見たことがないぐらいすごくきれいな夜景が目の前に広がりました。

冷たくて強い風に吹いていたけれど、すごくきれいで、絶対にまたこの夜景を見たいと思えるほど素敵でした。



最後に、タイムズスクエアに行きました。

夜の遅い時間にもかかわらず人通りも多いし、すごく明るくてにぎやかでした。家族や友人にお土産を買い、1日が終了しました。



憧れていたニューヨークの有名な場所をたくさん訪れることができ、とても充実した1日になりました。

## 市内観光2日目（3月5日）

（派遣高校生Sさん）

2日目はホテルから徒歩で国連本部へ行き、周辺で散歩をしました。道の途中には、ジャパン・ソサエティというNPO団体が運営する建物があり、ここでは日本をテーマにした展示会や講演、ワークショップなどの様々なイベントが開催されているそうです。



その後向かったチェルシーマーケットでは、日本では見たことがない食材がショーケースにいくつも並べられ、見ているだけでも楽しむことができました。また、海鮮食材を販売しているお店ではその場で寿司を食べられるカウンターがあり、どの席も予約で埋まっていることに驚きました。日本とアメリカの食文化の違いを実感するとともに、日本食がアメリカでも人気であることが分かりました。

チェルシーマーケットの近くには、ハイラインと呼ばれる全長2～3キロメートルにも及び空中公園があり、ニューヨークの景色を変った視点から楽しむことができました。冬だったためほとんどの植物が枯れていましたが、道を進む中で、市内視察1日目にいったエンパイアステートビルや、ニューヨークらしいカラフルで個性的なアート作品を発見することができました。



### ・ホストファミリーと対面

ホストファミリーの自宅に向かう車の中では、近所の様子や学校についてたくさん話しをしてくれました。ホストファミリーのお父さんはイタリア人で、家庭料理としてよく作るというファルファッレというリボン型のパスタとソーセージのソールを夕食に振舞ってくれました。

## 市内観光3日目（3月6日）

（派遣高校生Sさん）

午前中は他校の皆さんと一緒に市内の散策をしました。バスでNYU（ニューヨークユニバーシティ）のギフトショップへ行きましたが、店いっぱいに大学のオリジナル商品があり、アメリカの大学の規模の大きさに驚きました。



## UNISでの文化紹介（3月6日）

（派遣高校生Aさん）

午後から Culture showcase がありました。Culture showcase とは世界各国から来た生徒たちが自分の国の文化について紹介するイベントです。

私たちは、「弁当」について紹介しました。

大勢の外国人の前で発表するのは少し緊張したけれど、話し始めたら生徒たちが盛り上げてくれるので、緊張もいつの間にかしていませんでした。

弁当を紹介する中で、梅干しを実際に食べてもらう場面があり、「食べてみたい人はいますか？」と尋ねたところ、多くの生徒が興味を持ち、手を挙げてくれたのでうれしかったです。争奪戦になっていました。私のホストファミリーにも食べてもらったところ、酸っぱいけど美味しいと言っていました。私は、酸っぱいのはあまり好きではないかなと思っていたので、ホストファミリーの反応には驚きました。

他の国の生徒たちの文化紹介もすごく魅力的な面白かったです。

例えば中国は、墨でパンダを書いたり、民族衣装を着て踊ったり、韓国ではK-POPの曲を踊って披露したり、ベルギーではヨーロッパの事についてクイズ形式で紹介したりして、日本以外の国の文化が知れてとても面白かったし、もっと興味を持つようになりました。

このような文化交流の機会をもっと経験したいと思いました。



K-POPのダンスを披露する韓国の生徒たち



UNISの生徒が「Imagine」を披露してくれました

## UNISでのワークショップ（3月6日）

（派遣高校生Sさん）

文化紹介の後、UNISの校舎内で私たちが参加したワークショップは「Green youth power」と「Water sustainability」で、どちらも担当の先生が課題を提示して、生徒間で話し合いをする形式のものでした。

初めのワークショップでは、同じグループの生徒が意見交換する中で、ほとんどの会話が聞き取れなかったり、資料に載っている単語の意味を知らなかったりといった場面が多く、自分から話し合いに参加することができずにとっても落ち込みました。しかし、同じグループだった生徒が課題の意味をゆっくりとした話し方で教えてくれたり、自分の意見を文字に書き起こしたりしてくれたことで、最後まで諦めずに取り組むことができました。

2つ目のワークショップでは、会話の中で分からなかった部分はグループの人に聞くようにし、自身で課題の意味を理解することができました。

UNISでのワークショップで特に印象に残ったことは、先生が与えた課題に対して全員が自主的に取り組み、生徒間で盛んに意見を交換していたことです。初めて会った生徒同士であるにも関わらず、お互いの意見を真剣に聞き、質問をしたり難しいと思った点について話し合ったりする姿がとても印象的でした。また、インターネットのサービスを利用して、全員がその場で参加し全体の結果を可視化できるクイズがあり、日本にはあまりない教育のスタイルに新鮮さを感じ、実際に

自分でも使ってみたいと思いました。



### UNIS-UN会議1日目（3月7日）

（派遣高校生Aさん）

1日目は3人のゲストスピーカーの方々がお話しをしてください、ディベートをしました。

最初のゲストスピーカーは、元UNISの生徒で、最初は医者を目指していたけれど今はNPOで働いているそうです。そのNPOは、世界で水に困っている貧しい国などを助ける仕事をしているそうです。このNPOはここ12年間で35,281ものプロジェクトを立ち上げ、27か国950万人の援助をしているそうです。水と貧しい国の現状について教えてくださいました。

2人目の方のお話は、正直にいうと理解するのがすごく難しかったです。なぜなら、グラフを多く用いて説明してもらったのですが、私たちの席からはどんなグラフなのか見えず、また1人目のゲストスピーカーより話すスピードが速かったり、難しい専門用語を使ったりしたからです。話していた内容は、主に農業と水についてでした。農業は、たくさん水を使っていて、グラフの1つに、トウモロコシなど3種類くらいの作物を収穫する際に利用する水を減らすという目標をグラフなどに挙げて説明してくださいました。

3人目はUNICEFのプログラムのスペシャリストで、貧しい国の子供たちや現状などを教えてくださいました。

ディベートは、「先進国は持続可能な社会について大きな責任をもつ。」というテーマについて話し合いました。

私は、途上国も1つの国として協力すべきだけれど、やはり持続可能な社会をリードしていくのは先進国だと思ったので For の意見を持って話し合いをしました。ディベートの時には私たちのグループで For が多かったので For になりました。

結果は For が 52 で、Against が 42 という結果になりました。



### UNIS日本語学科での日本語会議（3月7日）

（派遣高校生Aさん）

UNIS-UN会議1日目の後、国連からUNISに戻って、他の日本の学校の生徒とUNISの日本語学科に通っている生徒でディベートをしました。

日本語学科の先生は、ディベートというよりも情報提供をしてほしいということでした。

テーマは「日本における水事情は、過去には持続可能な資源だったのにもかかわらず、仮想水の輸入量は増え、水ストレスが高いのに加えて、水源の枯渇の恐れも出てきた。世界的に見ると、被災難民が増え、水の需要がさらに高まる中で、日本は国際社会の中でどのような立ち振る舞いを取

るべきなのか」です。

いろいろな高校の生徒が混ざるようにして4つのグループに分かれて座り、話し合いを始めました。

私たちのグループであがった意見は、

- ・日本の浄水器のような技術は海外にはないから、もっと広めていくべき
- ・震災が起これ断水になって、水の大切さを痛感したからこそ、どの国でも今一度水の使い方を考え直すべき

などの意見が出ました。震災についての意見は福島県のふたば未来高校の生徒から出た意見です。

他のグループの意見は、

- ・簡易井戸など日本に伝わるものがあるが、そのようなものを知っている人材を増やして、水に困っている国へ派遣する
- ・水の使用量を減らす

が出ました。

結果として様々な意見が出て考えを広めたり、他の先生方からの話を聞いて日本の危機的状況を知ったりすることができて、いい経験になりました。

### UNIS－UN会議1日目（3月7日）

（派遣高校生Sさん）

普段学習する英語より学術的な内容が多く、全体を通して話を聞き取り、理解することが難しかったです。多くの生徒が講師に対して自主的に質問をし、講師からさらに話しを引き出そうとする姿勢がとても印象的でした。

### ホームステイの思い出

（派遣高校生Sさん）

私たちをホストしてくれたのは、私たちより1つ年上のIさんの家族です。Iさんはイタリア出身のお父さんと、アメリカ出身のお母さんと暮らしていて、猫を2匹飼っています。初めてのホームステイでとても緊張していましたが、たくさん話をすることができて、とても楽しかったです。

私のホームステイでの一番の思い出は、ホストファミリーと一緒にイタリアンレストランへ行ったことです。隣に住む家族も同席し、日本に旅行へ行った時の話を聞かせていただいたり、ニューヨークでおすすめの場所を紹介していただいたりしました。言いたいことをなかなか英語で表現することができないこともありましたが、どちらの家族も日本について沢山質問してくれて、とても居心地の良い時間になりました。ホストファミリーとは話す機会が多くありましたが、いつも話題が尽きず、普段の生活の話をしたり、みんなでゲームをしたりと、家族の一員のように接していただいて嬉しかったです。夕食の後には、隣に住む家族の家に招待していただき、ホストファミリーのIさんの誕生日を祝いました。誕生日の祝いにも次に誕生日を迎える人がケーキを切るなど、日本にない習慣がいくつかありました。

1日目の会議の後には、Iさんの友達と一緒にブルックリンブリッジを渡ってブルックリンに連れて行ってもらいました。ブルックリンブリッジからは、マンハッタン島にそびえる建物や、海の景色を楽しむことができました。橋の右側には、夏季限定でオープンされるガバナーズアイランドというリゾートの島がありました。ブルックリンの街並みは、前日に観光した場所と少し違っていてヨーロッパ風の建物が多く、映画の舞台にいるような気分を味わうことができました。

今まで映画やドラマではアメリカの生活を目にする機会がありましたが、実際にアメリカの家族



で生活をする中で、多くの海外らしい文化に気づくことができました。お風呂や家電の使い方などの生活の様式や生活習慣も日本とは違って、慣れない新しい環境で生活することの大変さを実感するとともに、毎日が新しい発見に満ちていてとても充実した1週間になりました。



(派遣高校生Aさん)

私は今回、Iさんの家にホームステイをしました。

Iさんは高校2年生の女の子で、お父さんがイタリア人、お母さんがアメリカ人でした。一人っ子で、家には2匹の猫がいました。

初めて会った日はすごく緊張して、Iさんがいろいろ話しかけてくれても反応しかできず、自分の言葉で意見を発したり質問したりなどがなかなかできませんでした。

ですが、2日目になってからは、自分から積極的に話すようにしました。なぜなら、自分からこのUNIS-UN会議に参加して自分が今まで習ってきた英語で外国人と話したいと決めたので、日本に帰ってきて「もっと話しておけばよかった」なんて後悔しなくなかったからです。そのように思ったら自然に英語が出てきて、いつの間にかIさんにたくさん質問したり自分の意見を話したりするようになっていました。

次の6日の夜はIさんたちとゲームですごく盛り上がりました。7日の夕方、IさんとIさんの友達、その人の家にホームステイしている生徒と私たち2人でブルックリンの橋へ行きました。時間帯がちょうどよくブルックリンの橋から見える建物に夕日がかかっているのがすごくきれいでした。自由の女神も見ることができました。



橋を渡っている途中でブルックリンの橋の話になり、Iさんが小学生の頃に勉強したそうで、ブルックリンの橋のでき方を丁寧に教えてくれました。完成するまでにいろいろなストーリーがあって、聞いて面白かったです。そのあとSOHOという地区へ行行ってショッピングをしました。服屋さんに入っているのを見て、絶対こんなの日本にない！と言えるほどの奇抜なものや露出の多い服がありました。日本にいたら考えられないものばかりでとても面白くIさんと盛り上がりました。そんなたわいもないお話しをする時間もすごく大好きでした。

家に帰って夕食は、Iさんの隣に住んでいるご近所さんと一緒にピザ屋に行きました。お父さん、お母さん、息子さんの3人と一緒に食べました。初めて会ったのですが、息子さんやお母さんは日本に行ったことがあるということからすごく私たちに興味を持っていろいろ質問をしてくれました。特に息子さんは簡単な英語で話しかけてくれて、気を遣ってくれたんだろうなと思いました。

話すチャンスをいっぱいくれてすごく嬉しかったです。食後に、一緒に食べたご近所さんのお宅にお邪魔しました。家に入る時に、外国人はそのまま靴で家に上がると知ってはいても、実際に入る時に少し躊躇しました。ご近所さんの家では、誕生日パーティーをしました。前日がIさんの誕生日だったからです。レモンタルトケーキとコーヒーをいただきました。ご近所さんのお母さんがすごくおもてなしをしてくれて、親切にしてくれました。やっぱりここまでのおもてなし精神は日本にはなく、海外ならではのなと改めて実感しました。ケーキはすごく甘くておいしかったです。次の日のダンスパーティーでは、Iさんが私達と一緒にいてくれたおかげで楽しむことができました。

最終日は朝から私たちの要望に付き合ってくれて、ショッピングに行きました。目的地には歩いて行ったのですが、最初は何か話したくてもお別れが近づいているからか、余計に話題も出てこなくて沈黙の状態が少し続きました。Iさんが建物の紹介をしてくれてもなかなか話をつなげることができませんでした。

家を出発する前にもIさんのお父さんが、何かあったらいけないから飛行機の便名を教えてほしいと言ってくれたり、運行状況を確認してくれたりして、本当に最高の家族でした。

今回、ホームステイは短かったものの、Iさんの家族に引き受けてもらえてすごく幸せだったし、出会えて本当に良かったと思いました。これからもずっと大切にしていきたいし、日本に来た際にはぜひ受け入れたいと思いました。いつかまた会いたいです。

### 旅先で気づいたこと

(派遣高校生Sさん)

ニューヨークは町全体に観光地があり、アメリカ以外の国から来た観光客が非常に多い場所でした。そのためか、旅の途中では日本食のお店をはじめ、中華料理、イタリア料理、スペイン料理などのお店を何度も見かけました。お店のメニューが何か国語もの言語で書かれ、日本語の表示を目にする機会もありました。また、街中にある新聞の自動販売機では、中国語やスペイン語の新聞が売られていました。街を散策する中で特に驚いたことは、日本で見慣れたお店があったことです。また、道路には日本製の自動車がたくさん走っており、ホストファミリーの家でも日本製の自動車を使っていました。

また、アメリカには友好的な人が多いという印象があります。地下鉄の駅で見かけたパフォーマンスでは、周りの人が手拍子をしたり、たまたま通りかかった女の子が音楽に合わせてダンスをしたりと、とても知らない人同士の集まりだとは思えないような光景を見ることができました。駅の階段を降りるときでも、重たい荷物を持っていると助けてくれる人がいたり、くしゃみをする周囲にいた人が「Bless you.」と言ってくれたりしてとても嬉しかったです。会議に参加する中でも、「Your Bento presentation was really good!」と文化紹介や日本の話題で気軽に声をかけてくれる人がいて、国際交流の楽しさを改めて実感しました。

町の中で野生のリスやネズミを見かける機会があったのですが、今まで日本ではそれらの動物を間近で見る機会がなかったためとても感激しました。ホストファミリーにその話をすると、ニューヨークにはどんなに気温がひくくても冬眠せずに活動しているリスが多く、町中でもよく食べ物を持って走り回っていると話していました。

(派遣高校生Aさん)

まず着いてすぐに思ったことは信号の違いです。

車の信号機は北海道のように縦になっていました。雪が積もるのを防ぐためなのかなと思いました。歩道の信号機も赤と青(緑)ではなく赤と白でした。

それに、青信号から赤信号になる際にちゃんとカウントダウンを数字に表示して教えてくれるのはとても分かりやすいなと思いました。それはぜひ、日本にも取り入れるべきだと思います。たぶん、点滅するだけよりは、数字でカウントダウンした方が分かりやすくてよいと思います。

2つ目は、ニューヨークについて2日目の朝に散歩に行った際に、新聞やマガジンなどを1ドルで販売している自動販売機があつて驚きました。日本で私は見たことがないので面白いなと思いました。

3つ目は、コーヒーショップの多さです。1週間の滞在中にいくつものコーヒーショップを見ました。驚くほどの数があり、羨ましいなと思いました。ですが、ホストファミリーのIさん曰く、アメリカのそのコーヒーショップは値段が高いそうです。いくつもの店舗があり、みんなが行くことをコーヒーショップ側は分かっているからだそうです。

4つ目は、メトロの騒音がすごくうるさいことです。日本も時々うるさい時がありますが、アメリカの電車が一番うるさいと思います。他のヨーロッパの国でもこんなにうるさいのは聞いたことがないです。

### 派遣を終えて

(派遣高校生Sさん)

今回の派遣を通して、私は日本では気が付くことができなかつた多くのことを学びました。日常生活の中でも、ホストファミリーやお店の店員さんに対して自分の考えていることや聞きたいことを英語で伝える難しさや、反対に相手から聞き取る難しさを実感しました。会議の内容は集中している姿を見て、とてもショックを受けました。また、相手が言っていることを理解できても、なかなか自分の英語に自信が持つことができず、普段の会話のようにいかないことに強いもどかしさを感じました。英語の重要さを学ぶと同時に、自身の英語力不足を痛感しました。しかし、今まで経験したことがないほど多くの国の人に出会い、多様な文化に触れることが出来たことはとても貴重な体験になりました。何より自分自身の視野が大きく広がったと感じるようになり、今まで以上に国際社会について学んでいきたいと思いました。

この行事において、私たちに力を貸して下さったすべての方に心から感謝しています。

(派遣高校生Aさん)

今回、UNIS-UN会議の派遣に参加できて本当に良かったです。

なにより、英語の国で実際に英語を使って生活をしたり、UNIS-UN会議に参加して今ある国際問題の現状を理解し、自分の意見を相手に伝えてみんなの問題に対して協力し合えたりしたことなど、日本では絶対に味わえないことをたくさん経験することができました。

また、Culture showcase では様々な国の文化を学ぶことができたと同時に、日本の文化を他の国に知ってもらえたので良かったです。

ホームステイ先の家族やご近所さんなど、素敵な方々にも出会えて、良くしてもらえてすごうれしかったし、感謝の気持ちでいっぱいです。また、この機会を与えていただいた横浜市の方々にも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

UNIS-UN会議では自分の英語力が足りなくてわからないところもあったけれど、これを機にもっと英語を勉強して、海外経験を豊富に積んで、将来日本の役に少しでも立てるように頑張りたいと思いました。

素敵な経験をさせてくださったすべての方々、ありがとうございました。

## 最後にー引率者所感

多年にわたり実施されてきたこのUNIS-UN学生会議派遣行事はすっかり定番の行事として、各方面に知られており、この行事を目指して入学してくる生徒も多い。しかし要求される英語コミュニケーション能力や様々な厳しい選抜条件のために応募をためらったり断念したりする生徒の数は多い。今回の派遣には2名の応募者があり、いずれも入学時より派遣参加を夢見ていた生徒である。派遣が確定した2人は英語の学習面では優秀な成績を収めていた。しかし、コミュニケーションという点では経験も少なく、性格的に控えめで大人しい生徒であったので、会議で自分の意見を述べるだけでなく多数の他国の高校生と交流を持ち、素晴らしいコミュニケーションを図ることが出来るかどうかについて、当人達はもとより多少不安を感じていた。

しかしこの派遣を通してこの2人は自ら積極的にコミュニケーションを図れる人になりたいとの目標を立て、事前研修でUNIS-UN会議のテーマである”Ripple Effect : The Water Crisis”について冬休みに勉強し知識を深めて、自分の意見を言えるように何度も原稿を作り直しながらAETスピーチチェックを繰り返した。また、コミュニケーションの一環として歓迎行事の中で催される文化交流会への参加を早々と決めて、その内容作成にも努力した。初めて過ごすニューヨークについても観光ガイドブックを購入し、興味のある観光地や食べ物、土産物などを調べ上げ綿密に行動予定も作り上げた。

十分な時間がない中で、上記の事前研修を経て実際のニューヨークに降り立ったこの2人がホームステイを経験し、英語でのコミュニケーションを図り、文化交流会で自分たちの学校生活の中で一番の楽しみの時間である昼休みに仲間と披露し合うお弁当について練習のとおり発表することができた。その反響が大きかったことで自信を少しつけることが出来たと思う。

2日間のUNIS-UN会議を通して、ゲストスピーカーの話の難しい内容を理解しようと努力する中で自分たちの未熟さを感じたり、語彙力の無さに悔しい思いをしたりすることばかりだったと思う。しかしこの経験を活かして、自分の将来について深く考えるきっかけとなったことは間違いなく充実した研修となった。

UNIS-UN会議の後にUNISでの日本語によるディベートで、他に日本から会議の参加した招待校、その他高校の生徒とUNISに通う日本人生徒を交えて、「日本における水事情は、過去には持続可能な資源だったにも関わらず、仮想水の輸入量が増え、水ストレスが高いのに加えて、水源の枯渇の恐れも出てきた。世界的に見ると被災難民が増え、水の需要が更に高まる中で、日本は国際社会の中でどのような立ち振る舞いを取るべきなのか。」というディスカッショントピックで、国連本会議場で行われた2日間のUNIS-UN会議の更なる理解を深める討議を行った。その夜はこの交流行事の最後を飾るダンスパーティーで、日本では高校生がめったに経験できないものであり、2人も初めこそ乗り気の無い素振りであったが、ダンスパーティーが終了する自国の午後10時迄、顔が上気するほどダンスを楽しんで帰ってきた。派遣前に立てた内気な性格を変えるという2人の目標は完全に達成されたように思う。

派遣を終えて、今後の高校生活の中で2人にこの経験がどのくらい影響を与えることが出来るかは未知数であるが、少なくとも彼女たちの心の中に自信が芽生えたことは事実であり、自分達が経験してきたことを積極的に発言したりすることで更なる自身を深めていくことは十分に想像できる。